

## 駒ヶ根市文化財

名称	円通寺の聖観音像と無縫塔
種別	美術工芸品(彫刻)
所在地	赤穂南割
所有者	円通寺
説明	<p><b>【聖観音像】</b></p> <p>円通寺(伊那諏訪八十八霊場の第六十一番)は、この地域の豪農横山氏の発願により、観世音菩薩を祀り、堂を建立したといわれている。創立年代は明らかではないが、寺の伝承によれば鎌倉時代の末頃、元弘 2 年(1332)の創建といわれ、火災により天文年間(1532~1555)再建、さらに昭和 27 年(1952)に改築した。</p> <p>この寺にある聖観音立像は、総長57cmヒノキの寄木造である。目は半眼で口は小さく朱を置き、三道はやや誇張的で衣紋の刻みが鋭い。彩色はなく蓮華座の蓮弁は彫出、左手に蓮華のつぼみを持ち、右手は来迎印を示す。一般に観音という場合、七観音の第一に当たる聖観音をさし、根本の像であるところから正観音ともいう。</p> <p>この観音を納めてある厨子の結構は、極めて精を尽くしたもので立派なものであるが、金箔が剥落しているのが惜まれる。横山家の伝承では、観音像は行基菩薩の作、厨子は鎌倉期の作となっている。創作の時代は、部分的には古式も見られるものの、新しい様式も混在しており、観音像・厨子ともに同家の伝承より、かなり時代は下らざるを得ないと判断される。</p> <p><b>【無縫塔】</b></p> <p>円通寺境内入口の墓石群の中に古い無縫塔(高さ58.0cm)がある。刻字は「幽谷尊霊 天正八庚辰天六月八日」となっている。無縫塔は塔身が卵形であるところから卵塔とも呼ばれているが、僧侶の墓というのが定説である。古い無縫塔では年号のないものが多いともいわれているが、天正 8 年(1580)、戦国時代末の銘文を持つ石塔で、市内では数少ない存在である。</p>

